

テーマ	リハビリテーション部におけるスケジュール調整の効率化を図る		
施設名	花川病院	発表者	飛田野 理紗(作業療法士)
サークル名	★ みんなの時間を守り隊 ★	リーダー	飛田野 理紗
活動期間	H23/6/22 ~ H23/12/7	サブリーダー	三塚 なつき
会合状況	会合回数 50回 1回あたりの会合時間 110分	メンバー	長谷川弘幸・加藤久典 手塚泰博・本吉真梨子・工藤拓志
テーマ選定の理由			
<p>リハビリを求める患者様に対し最大限のリハビリを提供する為、一週間単位でスケジュール調整を行なっている。現在「1日あたり最大9単位までリハビリ可能」である。患者様の状態を考慮(身体面・認知面・環境面など)しつつ、担当者不在時の代行も行い「365日リハビリ体制の拡充」に努めている。スケジュール作成についてアンケート調査を行ったところ「大変である」と感じている職員が多かった為、このテーマを選定した。</p>			

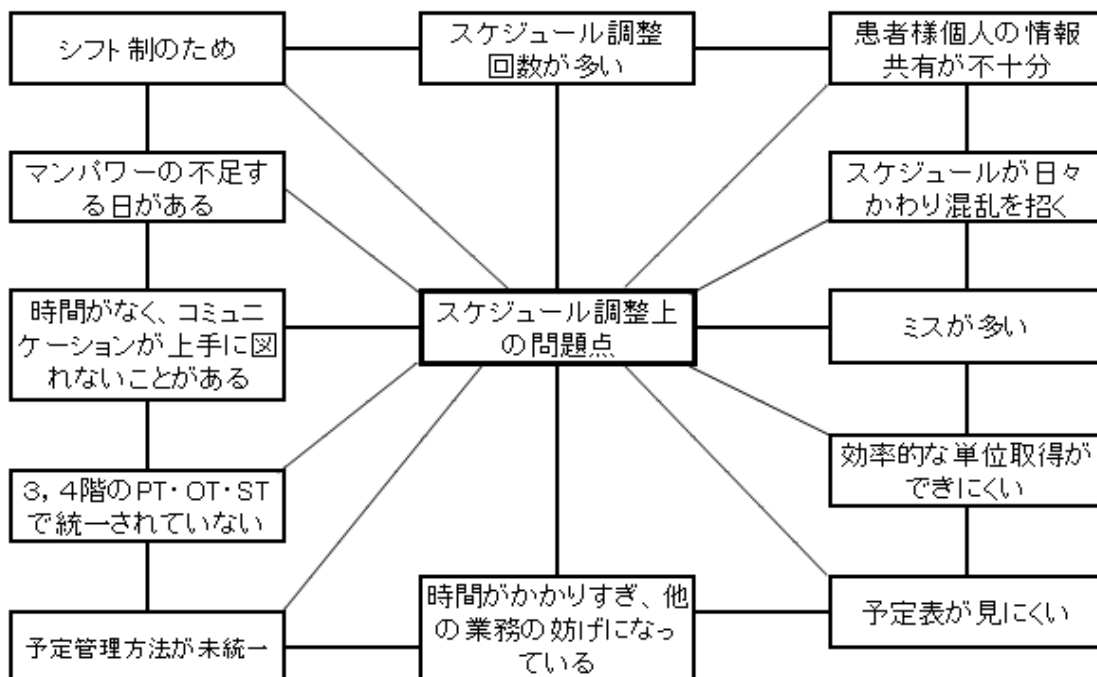
①現状の把握

リハビリ職員の増員に伴い、「リハビリを求める患者さんに対し、最大限のリハビリを提供するため」、患者さん1人当たり1日最大9単位を上限にスケジュール調整を行っている。しかし、スケジュール調整について部内でアンケートを行ったところ、『大変である』との声が「81.4%」と多くきかれた。

②目標設定

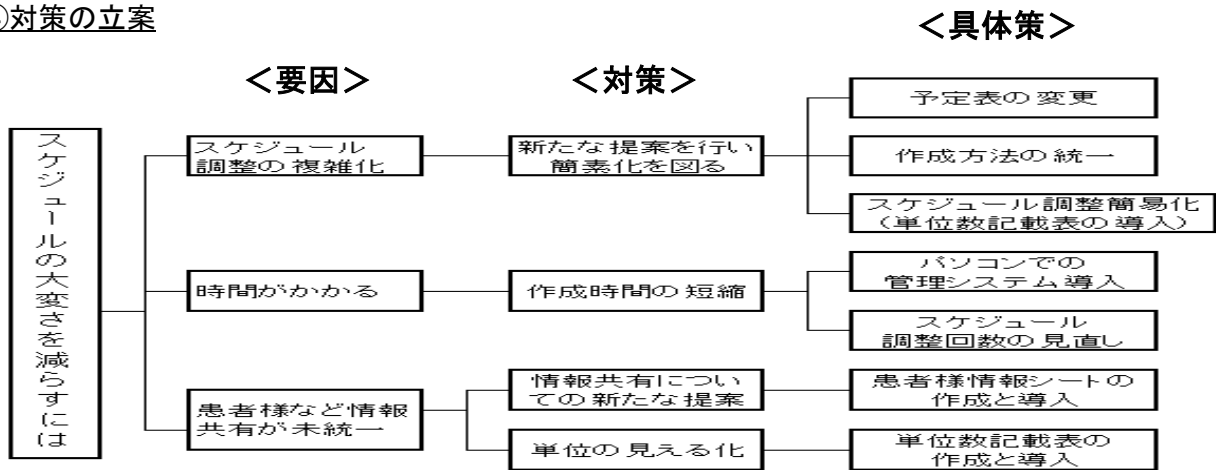
何を	いつまでに	どうする	なぜ
スケジュール調整の「大変さの平均値」	H23年10月30日までに	4.6点 ↓ 4.37点(5%減)	・大幅な改善は困難 ・リハビリテーションサービス低下の恐れ

③要因分析



要因同士の関係が複雑に絡んでいた為、スケジュール調整上の問題点を連関図を用い要因分析を行った。

④対策の立案

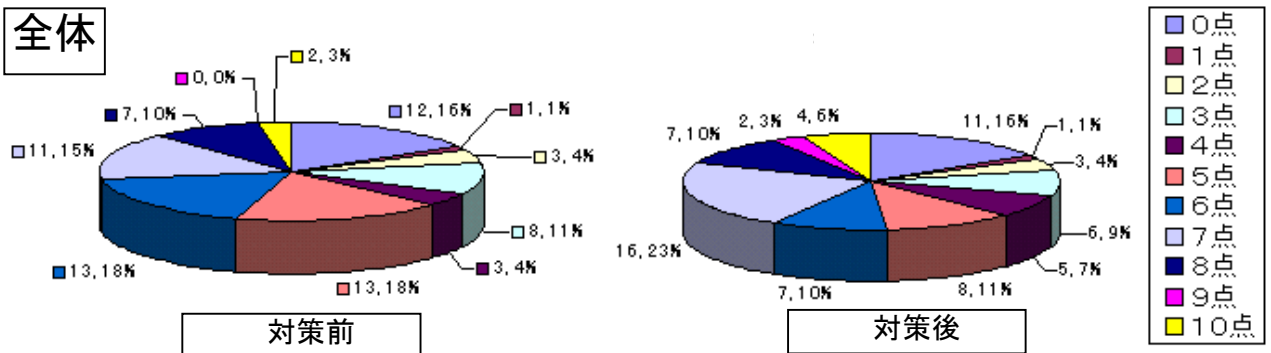


⑤対策の実施

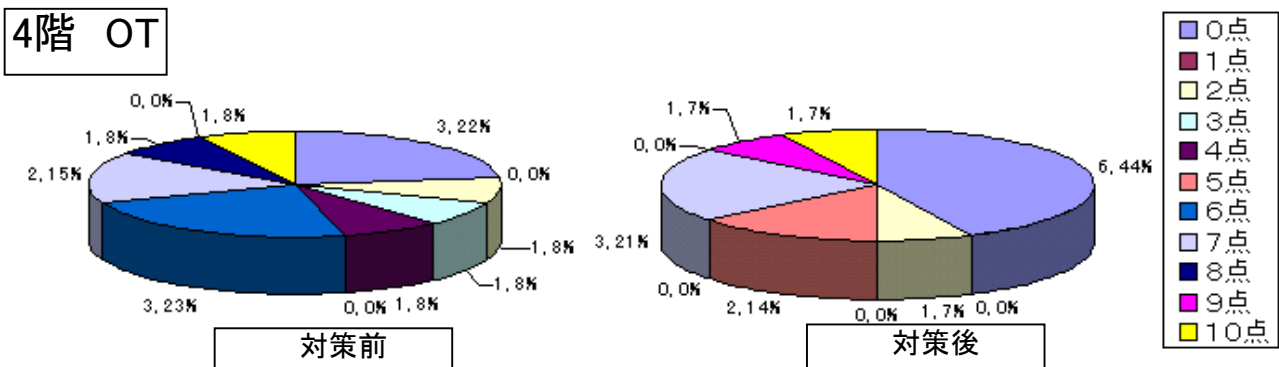
- 「単位数記載表」のルールについては「リハ部会議」や「各階の主任、チームリーダー」に周知を行った。
- また終礼にて「リハビリスタッフ全体への周知」を行った。
- 「単位数記載表」の準備と管理を行った。
- 「患者さん情報シート」の作成を行った。

⑥効果の確認

「全体」ではスケジュール調整の大変さの平均点が「4.6→4.8点」と増加し、目標未達成の結果となった。



しかし、「4階OT」ではスケジュール調整の大変さの平均点が「4.5→3.7点」と減少した。



- 無形効果: リハビリスタッフのスケジュール調整に対する意識が向上した。
- 波及効果: 各療法のスケジュール調整方法を知ることが出来た。

⑦歯止めと標準化

4FのOTでは効果が得られる結果となった。その要因として下記の事が考えられた。

- ・スケジュール調整を一度で行なっている事。
- ・スケジュール調整の順番が一番最後である事。

これを一つの成功事例として、今後「歯止め・標準化」に発展させていきたいと考えている。

⑧検証と見直し

全体では目標未達成となった事に対し、「要因」「対策・改善策」の検証を行った。

■ 要因

- 1) 時間が載っていない(情報不足)。
- 2) 情報が集約されていない(複数見比べる必要がある)。
- 3) マンパワー不足。
- 4) 「単位数記載表」の更新が難しい。
- 5) スケジュール調整における個別性の存在。

■ 対策

- 1) 時間が載っていない事に対し、時間情報を追加する。
- 2) 情報が複数枚に点在し、把握し難いことに対し、情報を一枚に集約する。
- 3) スケジュール調整時のマンパワー不足に対し、スケジュール調整時には出勤者数を増員する。
- 4) 変更に伴う「単位数記載表」の更新が難しいことに対し、「単位数記載表の変更係り」を選出する。
- 5) 各階・療法ごとにスケジュール調整が個別的である事に対し調整方法の統一を図る。
- 6) アンケートの声をふまえたマニュアル作成の検討を行う。

⑨反省と今後の課題

■ 良かった点

- ・スケジュール調整における問題点が明確化した点。
- ・問題点と向き合い問題点に対する意識が向上した点。

■ 改善点

- ・スケジュール調整に伴う「ミス」について未検討であった点。
- ・対策実施期間が短く、十分なデータを得る事が出来なかった点。
- ・プレテストより導入し有効性の確証が得られたらマニュアル化、全体へ波及させていく。

以上。

